

佐賀県開催 <むつごろうラウンド>

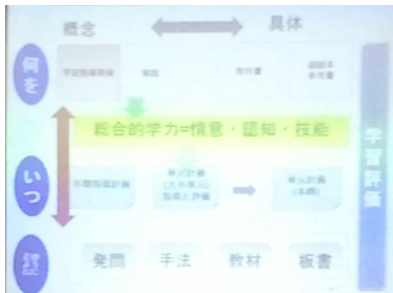


H25.11.22(Fri) 勸興公民館



九州地区学校体育研究発表大会佐賀大会終了後、九州各県の先生方に佐賀に留まっておいただき「むつごろうラウンド」を開催することができました。金曜日の17:00スタートでしたので佐賀県内の先生方の参加が難しい状況でしたが、研究大会に参加していただいた先生、九州共立大学の学生のみなさん、計40名で研究発表大会を振り返りながら、授業づくりについて熱く語り合うことができました。

1 ちょっと学習評価講座



佐藤先生より学習評価についてのミニ講座を開いてもらいました。「何を」「いつ」「どのように」、概念を理解しつつ具体化し評価につなげる。これをどのように単元の中で見取っていくのか。それが指導と評価一体化であり、学習活動に即した評価規準をもつことで効果的かつ効果的な評価につながることを説いていただきました。

子どもたちの学習活動を評価することは大切なことです。しかし、評価に追われたり、評価のための学習活動になったり、教えていないことまで評価することは論外です。今一度、学校現場の状況に合った評価の方法を探っていきたいものです。

2 タブレットの利活用(体づくり運動アプリ)

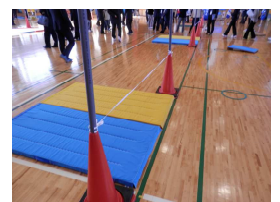
現在、開発中の体づくり運動のアプリを使って、体育の授業の中でのタブレットPCの利活用方法について皆でチャレンジしてみました。現在、多くのラウンドでタブレットPCの講座を開いていますが、初めてラウンドに参加していただいた先生方も多く、「おお〜!」「すげ〜!!」という声が上がってました。PCに使われるのではなく、使いこなす、そのためにはやっぱり触ってみたいといけませんね。



3 第52回九州地区学校体育研究発表大会佐賀大会を振り返って

小学校の6年生 走り高跳びを県教委 永淵先生、中学校の1年生 器械運動(マット運動)を佐大付属中 岩永先生、高等学校の2年生、武道(剣道)・球技(バスケットボール、テニス、ソフトボール)選択を厳木高 副島先生から公開授業の報告をしていただき、グループごとに公開授業のミニ授業研究会を行いました。

- 授業では、教師の意図としてその時間に何を身に着けてほしいのかを、児童生徒としっかり共有することから始めるべき。そのためにも、授業の始めに明確に示すことが必要である。
- 授業の中で教師の関わり方・しかけをしっかりとすることで、そのためのタブレットPCであり電子黒板であることを、教師自身が理解し授業づくりをする必要がある。
- 準備運動は、主運動につながる準備運動を組み立てること。知らず知らずのうちにハアハア言っている場面を作り出すようなしかけづくりをすること。
- 授業の中で教師が、努力を要する生徒(C)の子どもを、おおむね満足する状況(B)に引き上げる手立てを明確に持つこと。



- 補助具の使い方や補助のやり方は、安全面からも子ども同士だけでなく教師の関わりが大切であり、そのことが子どもたち自身の自主性につながっていくのではないだろうか。

- 単元計画は、スパイラル型・ステージ型で表すのもよいが、この時間に何を児童生徒に身に付けてもらいたいのかを明確にすることで単元を構成していくこと、そのためにも単元の構造図は有効である。

• 県教委として、九学体の運営や公開授業への指導にどのようにかかわっていくのか、どうイニシアティブをとっていくのが課題になりますね。

など、多くのご意見をいただきました。貴重なご意見を平成30年の全国学体研開催に向け、県全体の底上げから始めていきます。ありがとうございました。(報告：ふくい)